

# 研究報告書

学 校 名	渡嘉敷村立阿波連小学校
校 長 名	西表 りか
研究主任	上間 結実
研究副主任	森脇 大地

## I 研究主題

### 聴き合い・学び合う児童の育成 ～SDGsに基づく対話的で協働的な学びを促す授業づくり～

#### II 主題設定の理由

本校がある渡嘉敷島は、渡嘉敷島・座間味島などからなる慶良間諸島の海が2005年にラムサール条約に登録され、世界的にみても貴重な海域となっている。また、慶良間諸島の豊かな景観や豊かな生態系を保全することを目的として、2014年に国立公園に指定されている。

本校は、自然豊かな環境にあり、地域の特性を活かした学校行事や伝統文化が盛んな学校である。自然や文化、地域との関係など、変わらない本質を大切にしながら、新しい学びや体験、技術や情報など、変化する時代に合わせ、子どもたちに生きる力や自立力、創造力やリーダーシップなど、多様な能力を育てることを目指している。

その手立てとして、「SDGs」の要素を取り入れ、個人、集団として、より自分たちの社会に働きかける意識をもって生活することができるよう、また、「Think globally, act locally.」を合い言葉に、世界の一員として、個人、集団として何ができるかを考え、行動できるよう教科等横断的な視点で取り組む。さらに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるためにも、ICTを活用し、年間を通して児童にも自他の考えを伝える力や聴く力を高める指導を行うため、本テーマを設定した。

#### III 研究実践の主な内容

##### 1 阿波連小学校の校内研修（SDGs）背景及び目標・内容

###### (1) 背景

阿波連小学校は、自然豊かな環境にあり、地域の特性を活かした学校行事や伝統文化が盛んな学校である。児童は素直で明るい反面、自分の気持ちや考えを表現したり、伝えたりする力が弱い児童がいること、自分で考えて行動することが苦手な児童がいるため、対話的で協働的な学びをもとに、自分の考えを伝える力を高めたい。

###### (2) 具体的な目標

①渡嘉敷島の環境や伝統文化を誇りに思い、将来の夢や目標の実現に向けて自立するために、日々努力する児童の育成を目指し、お互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする資質や能力を育成する。

②SDGsへの意識を持ち、世界へ目を向け、問題を発見し、自分の生活に置き換えることができ、必要な情報を自ら調べ、自分ごととして友達と協力しながら、課題を解決しようとする態度など、非認知能力を高める。

### (3) 内容

#### ①教科等横断的な視点での取り組み

総合の環境教育の取組、平和学習等から、「自分ごと・我が事」として捉えることを意識し、持続可能な社会を構築するため、共通の目標を掲げ、一人ひとりができることを日々実行する。

#### ②地域への誇りと夢・目標をもてる学びの確保

生まれ育った地域の歴史や文化等を学び、地域への愛着と誇りを持つことをねらいとし、SDGsの視点で学校の行事、地域行事へ積極的に参加し、多様な学びの環境を形成する。

#### ③複式授業「ガイド学習」の取組

授業づくりに当たって、個別な学びを踏まえて自己調整学習を行う「個別最適な学び」と多様な他者と同じ目的のために、対等な立場で協力して共に働く「協働的な学び」の要素を組み合わせ、ICTを活用した学びの機会を充実していく。

## 2 研究の過程

時期	研究内容
4月	研究組織発足
4月5月	SDGs研究指定校認定式・講話（県教育庁島袋主事）（4/16）（5/30）
6月	平和教育「平和の礎名前を読み上げる集い」（渡嘉敷小中合同学習）（6/7） ハナリ島遠泳（6/28）
7月8月	環境省職員による講話・フィールドワーク「渡嘉敷島の自然」（7/3） SDGsフォトへの参加
9月	校内お話童話大会（9/18）
10月	社会見学（10/10～11） へき地視察（宮古島）（10/23～24） SDGs研究視察・加山興業株式会社施設及び養蜂場所（愛知県豊川市）（10/26）
11月	運動会（11/30）
12月	OIST（沖縄科学技術大学院大学）環境教育（12/5） JOCA講話（12/10） 教職員環境教育学習推進リーダー養成研修（12/19） 「こんな渡嘉敷島にしたい」意見文提出（12/25）
1月	米軍基地内学校訪問・交流（1/16）
2月	SDGs研究発表、創立式典（2/22）

【研究企画班】◎上間 結実 森脇 大地 富村 朝之

①職員研修の立案・運営 ②先進校視察の立案・運営 ③予算執行

【地域連携推進班】◎上間 結実 森脇 大地 荻堂 友美

①地域での学習活動、関係機関との連絡調整 ②特別活動での取り組み ③野外活動での取り組み

【授業実践班】◎森脇 大地 末吉 夏妃 上原 優司 吉長 綾 小淵 祐貴 義元 幸香

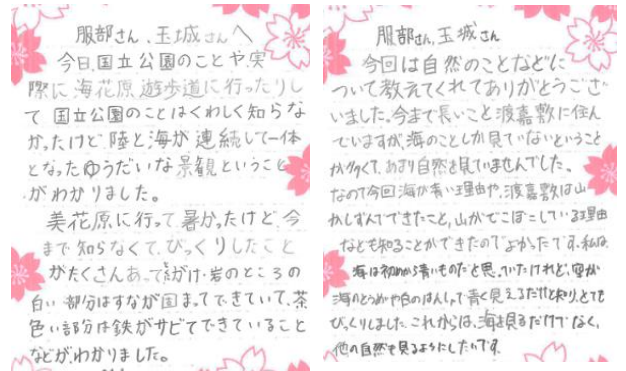
①校内公開授業の立案・運営 ②最終報告会の調整

### 3 研究実践



#### ①「渡嘉敷島の自然」環境省職員による講話・フィールドワーク

児童のアンケート結果から昨年からSDGsの意識は高まっており、渡嘉敷の自然について興味があり、自然保全の意識が高い。このことから、渡嘉敷島の自然をより調べる学習として、環境省職員による講話・フィールドワーク「渡嘉敷島の自然」を実践した。慶良間自然保護官事務所の職員が来校し、慶良間諸島や渡嘉敷島の自然に関する授業として慶良間諸島に生息している動植物の実態などについて学び、後半は、見花原遊歩道を歩き、実際に自然を見てまわる。オキナワハイネズなどの植物を見て触ったり、雨水の流れでできるポットホールを確認したり、渡嘉敷島の豊かな自然について学習することができた。



#### ②OIST 環境学習・訪問



沖縄科学技術大学院大学 (OIST) が研究を進めるサンゴをテーマとした環境に関する啓蒙活動、慶良間諸島の自然について学習した。環境 DNA 抽出実験の見学では、前日に汲んだ渡嘉敷島の海水を抽出実験している様子や、実際に使用している水中ドローンの実物を見ながら、研究者の解説を聞いた。また、国際色豊かな学生や研究者が日々、様々な研究をしている姿や OIST 施設の充実した施設を見学した。児童からは、「渡嘉敷島の海水を調べるだけで、周辺にすむサンゴの種類がわかることにびっくりしました。OIST を見学できることは本当にすごいことだと思いました。自分もサンゴを守りたいです。」と、渡嘉敷島ならではの大切な自然があることを再認識することができた。さらに、OIST 施設内では、公用語として英語が使用されており、関係者が生活に困らないよう英語教育が充実していることを知った児童は、「自分ももっと英語の勉強を頑張りたい」と英語学習への意欲に繋がった。



#### 児童の感想

- ・自分は初めてサンゴの勉強をして、今サンゴが危ない状況になっていると知りました。でも、ダイバーさんたちがオニヒトデを除去して徐々に回復していてすごいなと思いました。他にも、海水を取っただけでサンゴの種類がわかる機械や、40m も潜れる水中ドローンなどたくさんすごいものが見られたり、聞けたりしました。(5年生)
- ・OIST ではいろいろな国の方と交流し合い、仲を深めてその国の文化を知れてとってもいいなと思いました。自分も、将来は色々な国の方と交流して知識を深めていきたいです。(6年生)

### ③米軍基地内学校訪問・交流



国際交流をねらいとして、在沖米国総領事館の協力のもと、キャンプキンザー基地内に行き、キンザー小学校との交流学习を実施した。現地での体験や児童との対話をとおして主体的にコミュニケーションを図り、多様な文化への理解を深めることができた。

(阿波連小学校の紹介を英語で発表している様子、プログラミングの授業を一緒に受けている様子)



#### 児童の感想

・目や肌の色が違う人が、同じ場所でみんな一緒に楽しく勉強しているいいなと思いました。(2年生)  
 ・僕は、アメリカと日本が国は違うけれど、平等に接してくれたから、SDGsの10番に関わってくると思いました。(4年生)

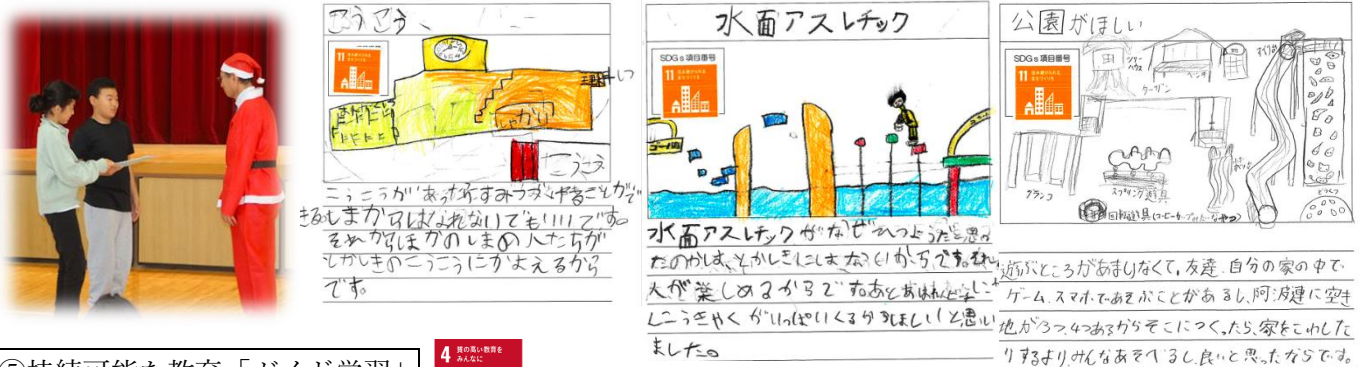
#### 児童の感想

・私は交流会でいろんな子と話し仲良くなることができたからSDGsの17番に関わっていると思いました。みんな笑顔で一つ一つ丁寧にわかりやすく教えてくれました。もっと英語を知ろうと思いました。(6年生)

### ④「こんな渡嘉敷島にしたい」村長に意見書提出



創立120周年の阿波連小学校を迎えるにあたり、これまで支えてくれた地域の方や携わってきた方々に感謝の気持ちを持つとともに、これからの渡嘉敷島について考え伝える実践として、全児童が「こんな渡嘉敷島にしたい」というテーマで意見文を書き、村長に提出した。高学年は、探究的な学習としてまとめたことを「SDGs達成に向けた教育実践」で発表する。



### ⑤持続可能な教育「ガイド学習」



#### 複式学級の授業づくり

ガイド学習



#### ガイド学習の取り組みについて

複式授業改善に向けて、教師は学習支援員の先生と連携して、直接指導、間接指導を行う。間接指導時には、児童はガイド学習のめあてをもとに、ガイドとフォロワーの役割のもと、教師がいない場面では、chromebook 端末を活用し、自分たちで学習を進めて学び合うことができる。

・ハナリ島遠泳



水泳学習では国立沖縄青少年の家やライフセーバー協会、ダイビング協会、地域の方など、多くの方々の協力を得て取り組んでいる。当日は、ハナリ島から阿波連ビーチまでの1kmを全校児童が保護者、学校職員、地域のサポーターと一緒に完泳することができた。



・運動会



学校行事の中では地域の方々の協力の下、伝統的な文化を継承していく。



・三線・エイサー（渡嘉敷青年会）

・あはりっ子太鼓（慶良間太鼓同志会）



・海ゴミを使ったとかしきマラソンメダル作り

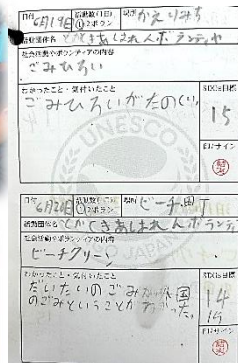


・毎月1回のぴかぴか清掃  
SDGs パスポートの活用



ぴかぴか清掃で拾った海ゴミ（海洋プラスチック）をメダル制作に使用。

海ゴミをアップサイクルする



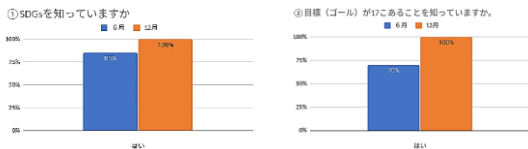
## IV 研究の成果と課題

### 1 成果

#### ○児童の変容・成果

・これまで、離島・へき地ならではの行事や自然環境の学習はあったが、児童が自主的に島外に意識を向けることになかなか繋がらなかった。今回、様々な取り組みの中で、SDGsの視点で物事を考え、そこから自分たちの未来の社会を見据えて物事を考え、自分にできることに取り組むことができた。

・SDGsの観点を学び、実際に島外に出て、目で見て、多様な考えに触れ合うことで、世界規模で考える“Think globally”に繋がった。次年度は“act locally”として、さらに自分には何ができるのか、そして協働して取り組むことを継続したい。



#### ○児童の感想

SDGsは自分には関係がないと思っていたけれど、SDGsを達成することで地球を変えられると思った。(4年生)

町をきれいにするためにどんなことに取り組めばよいか、どんなことを続ければよいか考えることができた。(4年生)

SDGsは達成することでいろいろな人が困らなく生活できることだとわかった。これからもしたいことは、びかびか清掃でゴミをたくさん拾う。(5年生)

SDGsを知る前は、世界の問題なんて自分には関係ないと思っていたけれど、SDGsを勉強して渡嘉敷のサンゴ以外にも白化現象が進んでいる事がわかった。OISTに行って今のサンゴの現状など聞いたからこれからはサンゴのことや世界のゴミ問題を学習したい。中学校に行ったら今よりサンゴの白化現象について知りたい。(6年生)

### 2 課題

・低学年の学習では社会への広がりを考える機会が少ないので、SDGsとの関連をどのように図っていくかが難しい。

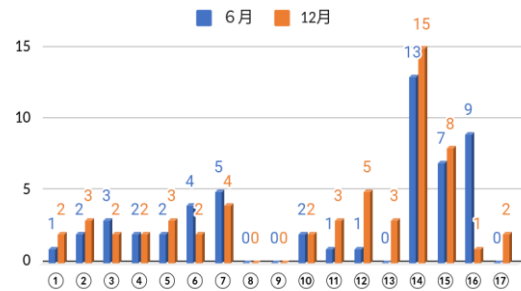
・さまざまな教科にSDGsを取り入れて学習したかったが、対話的な活動では、まだ慣れていないので形式的になりがちで深い学びまでできていない。

・SDGsを意識して学習に取り組むことはできるが、その後、自分自身のこととして捉え、行動していくことには繋がっていない児童もいる。教師から積極的にその機会を設け、子ども達の意見を汲んで実行していかないといけない。

#### ○児童の感想

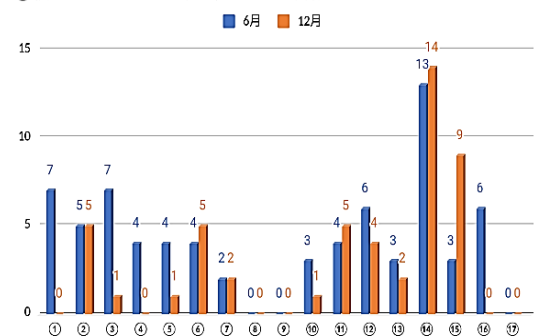
SDGsを学習する前は、拾ったゴミを使ってゴミアートをすることしかできなかったけれど、OIST見学や基地内訪問をして、ゴミを拾う以外にもできる環境への取り組みや、他の外国ではどのようなSDGsをしているのか考えることができた。自分にできることが他にもあるのかもっと調べたい。(6年生)

#### ③興味のある目標



・目標14番、海の豊かさについては、6月も12月も興味関心が高い。6月は平和学習を行ったことで、目標16番の平和への関心が高くなっている。12月は目標11番から目標15番、目標17番を選ぶ児童が増えた。これまでの学習から、身近な自然とそれ以外の目標についても関心が高くなっている。

#### ⑤個人でSDGsのために取り組んでいる目標



・目標14番海の豊かさ、目標15番陸の豊かさについて増えた。渡嘉敷の自然探索から陸についても関心が高まっている。

6月と12月の行事や授業の学習内容の時期によって、取り組む内容にばらつきがある。継続して、子どもたちが活動に取り組めるよう計画を立てたい。

R6 教科横断的年間指導カリキュラム「SDGsの視点」

重点SDGs	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キーワード それぞれの目標		17 持続可能な開発目標	10 人や国の不平等をなくそう	2 気候変動に具体的な対策を	11 持続可能な都市とコミュニティを築こう	3 健康と福祉をよくなるようにしよう	4 質の高い教育をみんなに	4 質の高い教育をみんなに	9 産業と雇用創出	3 健康と福祉をよくなるようにしよう	3 健康と福祉をよくなるようにしよう	10 人や国の不平等をなくそう	11 持続可能な都市とコミュニティを築こう	17 持続可能な開発目標
教科横断的に伝えたい価値・育てたい資質能力		目標・共通し・計画 目標のためにみんなが力を合わせよう	いじめストップ・協 力 国や、国の人間性の不平等をなくそう	教育・家族愛 ごはんを毎日食べられない人をなくそう	地域愛・海 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	福祉 すべての人が「ずつと健康」に生きていけるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	産業 暮らしを支える土産をつくらう	健康 すべての人が「ずつと健康」に生きていけるようにしよう	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	国際協力 国や、国の人間性の不平等をなくそう	地域愛 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	感謝・協力 目標のためにみんなが力を合わせよう
実践1 学校行事・地域PTAの連携		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。
実践2 特別活動		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。
実践3 教科		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。
実践4 総合的な学習の時間		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。
実践5 総合的な学習の時間		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。
実践6 【1学年】 【2学年】 【3年生】 【4年生】 【5年生】 【6年生】		見通し力 見通し力	コミュニケーション ・他者への思いやり	意への関心・家族 への感謝の気持ち	あきらめずに取り 組む力	高齢者に対する正 しい態度を養うこと ・相手の立場にたつ	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	教育 だれもが教育をうけられるようにしよう	協力して活動する 力 ・協業・工業について知る	体力健康・地域の 人と協力する	地域愛・自然 「ずつと住み続けられる安全安心なまちを」を	協力・感謝の心 ・共感的人間関係を育てる	私運を支える地域 の力 ・高齢者の関心 を伝える	これまでもお世話に なっていた「へ」への 気持ちを育む。

# 1年生



## 食から広げ SDG's

### 米づくり

#### 児童の実態

4月にご飯粒をお茶碗に残したまま食べ終わる児童が多く、食への関心を高めたいと考えた。

ご飯粒のついたお茶碗のことを全員で考え、児童は「ごはんってどうやって作っているの?」と疑問を抱くようになり、稲作を営んでいる方々の気持ちや給食を作ってくれる方々への感謝の心を持つことの大切さを学んだ。

#### 導入



- 米粒のついた茶碗の写真を見て考える。
- 絵本「つぶたろう」動画視聴



#### 展開

- 稲作体験
  - 稲刈り体験
  - 脱穀体験
- (稲の成長過程を掲示物で学ぶ)



#### まとめ

- 稲作している人たちへの感謝の気持ちをもってお米を食べる。



#### 成果

- 児童が食への関心を持って、米作り体験に積極的に参加することができた。
- 学習の前後で、児童らが考える SDG 's の番号が変化し、より深く考えていることを実感した。17のゴールの意味を理解してきたからその変化だと思う。

#### 課題

学校から田んぼまでは、距離があったので成長過程を観察することができなかった。そのため、こまめに写真を撮りに行って掲示をしていた。直接観察ができていたら、田んぼの様子や田んぼにやってくる生き物などにも目を向けて考えることもできたと思う。

# 2年生



海の豊かさを考えよう

SDG'S

## 漁業協同組合見学

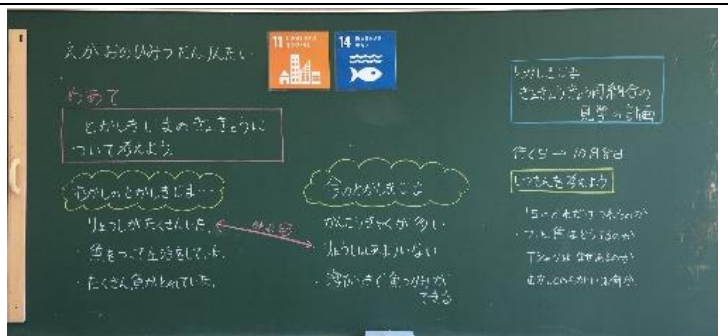
### 児童の実態

児童は、夏になると近くのビーチで海水浴を楽しみ、秋にはミジユン(鰯)釣りをするなど海を身近に感じ、とても関心を持っている。また、生活科の「えがおのひみつたんけんたい」で、色々な職場へ行き見学やインタビューをする体験を行った。そこで、漁業協同組合の見学から海や自然に対するいろいろな取り組みを学ぶことができた。

### 導入



- 私たちのまちには、どのようなお店や公共施設があるのか考えた。
- その中から、実際に見学に行きインタビューをすることを確認。見学場所に対して疑問に思っていることを考えた。



### 展開

• 漁業協同組合へ見学・インタビュー



### まとめ

• 見学を通して感じたこと、これからどうしていきたいか考えワークシートにまとめた。



### 成果

昔と比べ漁獲量が減っていることを知り、小さい魚は捕らないようにする等、自分たちができる取り組みを考えていた。

### 課題

海で起こっている問題は、日本だけではなくいろんな国が関わっていることなので、継続指導が課題である。

# 3・4年生



# 社会 ごみはどこへ

**児童の実態**  
 児童らは、毎月1回、地域やビーチのごみ拾いとしてびかびか清掃を行っている。道やビーチに捨てられているごみが海の生き物へも大きな影響を与えてしまうという海洋ゴミ問題にも興味を示している。そこで、「ごみを出さないためにはどうしたらよいか」「捨てられたゴミがどうなるのか」ということを、4年社会科「ごみはどこへ」で学習し、ごみを減らしていくために自分にできることを考えまとめた。

<p><b>導入</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのごみについての学習</li> <li>びかびか清掃</li> </ul>    
<p><b>展開</b></p>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理場見学</li> <li>ごみについての学習</li> </ul>    
<p><b>まとめ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsと関連させてまとめる。</li> </ul>

**成果**

- 児童がごみ問題を自分事として捉え、関心を持って取り組むことができていた。
- 学習時には、児童のSDGsのゴール（目標）に関わる発言が増えた。

**課題**

- ごみを増やさないために自分達にできることを考えさせた際に、抽象的になっていたため「継続できる具体的なこと」に絞り、普段の生活から意識して取り組めるようにする。

5・6年生

11 住み続けられるまちづくりを



渡嘉敷の未来

SDGs

まちづくり

実践の背景

児童は、2学期に「こんな渡嘉敷島にしたい」というテーマでアイデアを考え、渡嘉敷村長に意見文を提出した。その際、「コンビニや飲食店がほしい」という考えが出ていたが、そこから、「誰もが持続可能なまちづくり」とは何かという課題を設定し、情報の収集や整理、分析を行い、改めて「こんな渡嘉敷島にしたい」というテーマに対する考えをまとめた。

課題の設定

- ・渡嘉敷島をどんな島にしたいかについて考える。
- ・SDGsの目標11「住み続けられるまちづくり」について話し合う。

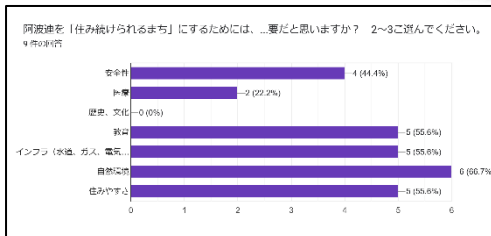


情報の収集

- ・日本の「SDGs 未来都市」について調べる。
- ・阿波連地区を散策し、SDGsの目標11に関する課題を見いだす。
- ・保護者や地域の人たちにアンケートを行う。



1グループ 北海道西興郡村			
安全性	医療	歴史、文化	教育
・災害が少なく安心安全	・18才以下の医療費を無料	・2001年に公共施設や民営施設の移築、改装に対する補助金で建物の外観がモダンな茶色が多くなるよう指導した	・
インフラ	自然環境	住みやすさ	その他
水道		・福祉の村の推進 ・小学生・中学生学校給食の無料化 ・2017年度の出生にたいへんを支援 ・移居後15年以上経過した家のリフォーム	・いろいろな建物のボスターに観光広告をのせて、西興郡村を知ってもらおう



整理・分析

- ・調べたことを整理し、まとめる。



まとめ

- ・まとめたことを阿波連小学校創立百二十周年記念式典で発表する。

成果

- ・自分が住んでいるまちの人・もの・ことを再認識することができた。
- ・①アイデアを考える、②SDGsの視点を確認する、③他市町村の実践を調べる、④再度アイデアを考えるという学習の流れを通して、より児童がSDGsを意識してまちづくりについて考えることができた。

課題

- ・情報収集を行う際、膨大な情報から必要な情報を精査することに難しさを感じていた児童が見受けられたため、常に視点を明確にして行えばよかった。
- ・地域行事や学校行事、伝統行事が多い中、児童自らが課題を設定し、情報の収集や整理・分析を行うまでの時間を確保することが難しい。